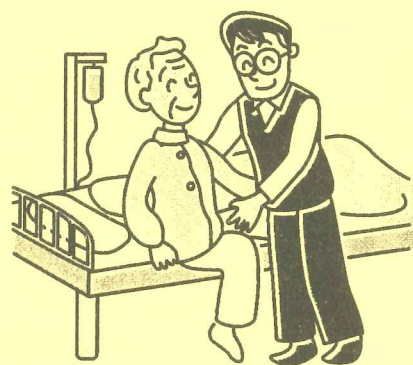


明德中学校



[illegible][illegible]

の	一	っ	る	域	に	こ	す	ハ	に	そ	か	続	不	し
方	生	て	こ	の	社	の	る	し	お	し	？	き	可	か
々	懸	い	の	福	会	考	こ	心	年	て	を	、	能	し
が	命	ま	の	社	人	え	と	遣	寄	出	改	今	な	現
毎	に	す	で	問	に	を	で	ハ	り	た	め	、	こ	実
日	生	。	き	題	が	ハ	す	ハ	に	結	考	自	と	問
笑	き		る	を	つ	ス		を	対	論	え	分	な	題
顔	た		大	も	た	と		忘	し	は	ま	が	の	と
で	、		人	つ	時	し		れ	て	、	し	で	で	し
安	お		に	と	は	、		ず	の	昨	た	き	昨	て
心	年		な	真	必	数		に	、	年	。	る	に	、
し	寄		ち	剣	ず	年		生	気	と		こ	引	そ
て	り		う	に	地	後		活	遣	同		と	き	れ
			思	考						様		は		は

暮	ら	す	こ	と	の	で	き	る	社	会	を	作	る	担
い	手	の	一	人	に	な	る	た	め	に	、	自	分	自
身	、	日	々	の	努	力	を	怠	る	こ	と	な	く	頑
張	ら	な	く	て	は	な	ら	な	い	と	思	っ	て	い
ま	す	。												
	最	後	に	、	今	、	僕	の	祖	母	も	、	施	設
で	お	世	話	に	な	っ	て	い	ま	す	。			
自	分	の	こ	と	を		た	く	さん	が	わ	い	が	
っ	て	く	な	お	ば	あ	ち	や	ん	の	こ	と	を	
こ	な	が	ら	も	よ	ろ	し	く	お	願	い	し	ま	す
自	分	が		こ	な	が	ら	は		頻	繁	に	訪	問
し	て		お	ば	あ	ち	あ	ん	を	え	ん	づ	け	た
い	と	思	い	ま	す	。								
こ	れ	が		今	出	来	る	こ	と	の	一	つ	で	す

言葉が頭にうかんできました。私	と、考え、みるのと、介護と、いう	私は、高齢者の方にできること	できるの、でしょうか。	さんの高齢者の方に、私は何が	そんな中、身の周りにいる、たく	のため、高齢者の方も多くいます。	い、大きな問題と、なっています。そ	者の割合が、四人に一人となるくら	の、全人口に対する、65歳以上の高	「高齢化」。2015年には、日本	現在、日本の課題と、なっています。		山田小雪	藤崎町立明德中学校 一年	高齢者のために
-----------------	------------------	----------------	-------------	----------------	-----------------	------------------	-------------------	------------------	-------------------	------------------	-------------------	--	------	--------------	---------

してあげること、が大事だ、と思いま	護を必要とする人、にできることを	おばあちゃんなど、身の周りの介	私達、中学生も、おじいちゃん、	「7」とも、必要なもの、なのです。	このように、介護は、高齢者にと	座を、したり、して、いる、そう、で	相談を、受けて、リハビリ、介護技	また、町や、県下も、介護につい	です。	なり、やすく、介護が必要となる、そ	症・脳梗塞など、さまざまな病気に	やはり、年をとるにつれ、認知	「7」は、高齢者の介護をして、いま	の母は、介護福祉士という、仕事を
-------------------	------------------	-----------------	-----------------	-------------------	-----------------	-------------------	------------------	-----------------	-----	-------------------	------------------	----------------	-------------------	------------------

す。	また、	介護以外にも	高齢者の方	にできること	はたくさんあります。	例えば、	電車の中で	席をゆずる	てあげたり、	階段の上り降り	を手伝ってあげたり、	荷物を持ってあげたり、	けたりなど	ささいなことでも	高齢者の方にと	てはとも	助かること	です。	私は、	このよう	な介護や手助け	ができる人	はみんな	高齢者	に	対する	やさしい心	があるのだと	感じます。	場合によ	ては、	今	まで	育てて	くれた	恩返し	がしたい	と思っ	て	いる	人	や	も	と	長生
----	-----	--------	-------	--------	------------	------	-------	-------	--------	---------	------------	-------------	-------	----------	---------	------	-------	-----	-----	------	---------	-------	------	-----	---	-----	-------	--------	-------	------	-----	---	----	-----	-----	-----	------	-----	---	----	---	---	---	---	----

きしてほし	いと強く思っ	て	いる	人も	いる	と思	います。	だから	私は、	「高	齢化	」を	悪く	とらえる	のでは	なく、	人	に	対	する	やさしい心	を	育	て	る	機	会	だ	と	思	っ	て	ほ	し	い	で	す。	でも、	高	齢	者	と	う	ま	く	接	す	る	こ	と	が	で	き	な	い	と	い	う	人	も	い	る	と	思	う	ので、	学	校	の	行	事	に	高	齢	者	と	の	交	流	の	場	を	つ	く	り、	も	と	私	達	が	高	齢	者	の	役	に	立	て	る	よ	う	に	な	っ	て	い	け	た	ら	い	い	で	す。
-------	--------	---	----	----	----	----	------	-----	-----	----	----	----	----	------	-----	-----	---	---	---	----	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

す。	不	活	と	ト	な		は	活	好	は							
私	幸	と	感	の	時	逆	た	と	き	ど	み	藤	幸				
の	セ	通	じ	点	で	に	く	通	な	ん	な	崎	セ				
人	と	し	る	数	す		さ	し	こ	な	さん	町	と				
生	感	こ	時	が	か。	「	人	こ	と	な	は	立	「				
に	じ	、	と	悪	「	不	あ	と	し	時	「	明	不				
あ	る	「	は	か	「	幸	り	「	こ	で	「	徳	幸				
る	こ	幸	対	「	「	セ	ま	幸	「	す	幸	中	セ				
「	と	セ	照	た	「	と	す	セ	「	か。	「	学	「				
不	は	に	的	時	「	思	よ	「	「	家	「	「	「				
幸	必	伴	に	「	「	う	ね。	「	時	族	「	「	「				
「	ず	い	「	幸	「	時		「	日	と	「	「	「				
は	あ	「	日	セ	「	は		「	常	「	「	「	「				
「	り	「	常	「	「	ど		「	生	「	「	「	「				
	ま	「	生	「	「	ん		「		「	「	「	「				

「		「	「	「	幸		「	「		と	れ	う	こ	先
テ	例	「	平	「	「	私	「	「	「	ん	ば	言	と	程
ス	え	「	等	福	「	が	「	「	「	ど	「	葉	「	に
ト	ば	「	に	祉	「	こ	「	「	「	だ	悪	が	「	あ
の	「	「	分	「	「	の	「	「	「	と	い	目	「	げ
点	不	「	け	「	「	「	「	「	「	思	印	や	「	た
数	幸	「	ら	「	「	「	「	「	「	い	象	耳	「	例
が	「	「	る	「	「	「	「	「	「	「	「	に	「	の
悪	「	「	幸	「	「	「	「	「	「	「	受	は	「	「
か	「	「	セ	「	「	「	「	「	「	「	け	「	「	「
「	例	「	「	「	「	「	「	「	「	「	る	「	「	「
た	に	「	「	「	「	「	「	「	「	「	こ	「	「	「
と	あ	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「
き	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「
「	た	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「

は	る		便	ら	自	よ	そ		ら	な	的	よ	ト	と
日	わ	勿	だ	ど	由	ね	も		か	く	に	う	の	考
本	け	論	と	う	に		っ	文	ら			に	点	え
に	び		思	で	使	そ	た	字	考	文	問	落	数	こ
も	す	世	い	し	う	ん	め	を	え	字	題	込	が	み
こ	か	界	ま	う	こ	な	に	か	こ	を	を	み	悪	こ
の	ら	中	す	か	と	中		く	み	か	と	ま	い	下
青		に			が		手	と	て	く	く	す	と	さ
木	体	は			で	ど	や	い	下	と	と		き	い
県	が	多		私	き	こ	目	う	さ	い	こ	し	は	
に	不	く		は	な	か	を	の	い	う	ろ	か	当	勿
も	自	の		と	く	一	使	は		い	こ	し	た	論
い	由	人		こ	な	部	い	ペ		う	で	根	リ	テ
る	な	が		も	た	で	ます	ニ		こ	は	本	前	ス
で	方	い		不	た	も							の	

に	崎	て	駄		務	将	す	藤	暮		け	け	て	し
め	町	い	に	ま	だ	来	こ	崎	ら	そ	で	び	い	う
に	を	き	す	た	と	の	と	町	す	ん	す	も	る	う
	少	た	る		思	藤	が	全	た	な	た	十	物	私
尽	し	い	こ	両	い	崎	で	体	め	方		分	を	達
く	で	い	と	親	ま	町	さ	を	に	々		に	使	が
し	も	で	な	か	す	を	る	安	は	が		に	う	日
て	住	す	い	ら		受	環	全		少		に	と	常
い	み	さ	よう	頂		け	境	に	私	レ		に	い	茶
き	よ	ら	う	いた		継	に		達	び		に	う	飯
た	い	に	大	体		ぐ	す	快	の	も		に	行	事
い	町	こ	切	を		私	る	適	が	不		に	為	に
で	に	の	に			達	の	に	義	便		に	だ	行
す	る	藤	し	無		の	が	暮	ら	な		わ		

[illegible][illegible]

と	？	れ	少	助	い	人	で	実	声	対	私		を	と
思	た	が	し	け	と	へ	し	際	か	応	た	で	深	思
い	と	自	ず	を	思	の	よ	は	け	が	ち	は	く	い
ま	し	分	つ	し	い	声	う	声	や	で	に	そ	理	大
す	て	と	手	た	ま	が	私	を	助	き	ほ	の	解	変
。	も	関	伝	り	す	け	は	か	け	る	ど	大	し	さ
ま		わ	い			な		け	る	で	の	変	ま	と
た	声	り	を	先	例	と	普	ら	な	し	よ	さ	た	不
、	を	の	し	生	え	を	段	れ	と	う	う	を	。	自
対	か	な	て	や	ば	し	か	な	言	か	。	知		由
応	け	い	い	家		て	ら	い	い			っ		さ
で	て	他	く	族	友	い	周	人	ま	多	た			の
は	い	人	と	に	達	け	り	が	す	く	後			両
	け	で		で	の	ほ	の	多	が	ほ				方
お	る	あ	そ	も	手	い		い						

？	ト	ま	ほ		る	で	れ		う	サ	も	と	リ	年
て	を	す	福	最	こ	す	を	福	社	ポ	カ	思	ゆ	寄
み	し	か	社	初	と	。	実	社	会	ー	に	い	く	リ
ま	て		に	も	で	相	際	を	に	ト	な	ま	り	や
せ		高	つ	問	相	手	に	考	な	を	れ	す	と	障
ん	少	齢	い	い	手	を	行	え	っ	レ	る	。	話	害
か	し	考	て	ま	の	少	う	る	て	テ	と	。	せ	者
	で	や	考	し	力	し	こ	と	い	い	思	。	ば	に
	も	障	え	た	に	で	も	い	く	け	う	。	開	は
	相	害	た	が	な	も	サ	う	と	。	し	。	こ	大
	手	者	こ	、	れ	ポ	も	こ	思		、	え	え	き
	の	の	が	み	る	ー	と	と	い	助	み	す	す	ほ
	力	サ	あ	な	の	ト	重	は	ま	け	ん	い	っ	き
	に	ポ	り	さん	で	す	要	そ	す	合	な	で		
	な	ー									が			